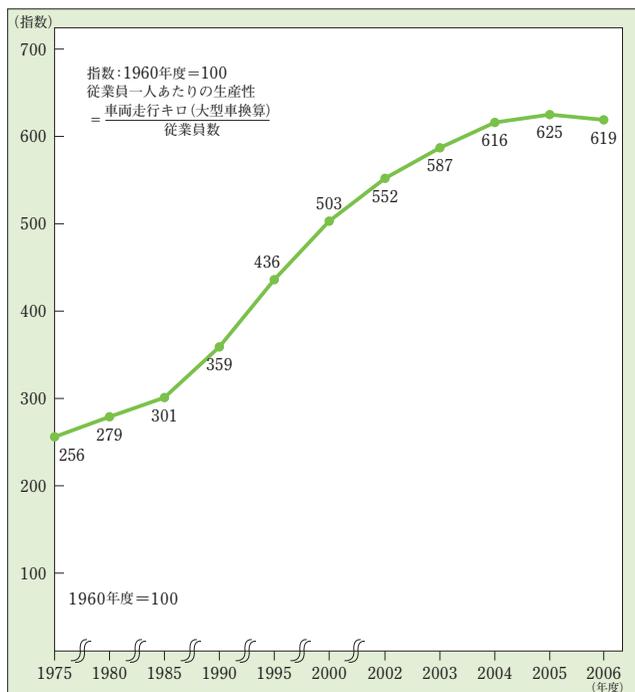


業務の効率化

■生産性の推移

安全性やサービスと同様に生産性の向上を図るために各種施策を推進していますが、特に大きなウエイトを占める人件費に対しては、駅業務の機械化をはじめとする諸設備の近代化、業務の省力化等あらゆる努力で従業員数の抑制に努めてきました。

この結果、従業員一人あたりの生産性は、1960（昭35）年度を100とすると2006（平18）年度は619となりました。



■ワンマン運転の実施

競馬場線では、1999（平11）年7月から、平日にワンマン運転を行っているほか、動物園線でも2000（平12）年10月からワンマン運転を開始するなど、業務の効率化を図っています。ワンマン化に際しては、ホーム上に後方監視用のミラーなどを設置しているほか、動物園線では出発監視用のセンサーを設置し、安全性の確保に努めています。